



おかえりなさい 世界のウチナーンチュ!

10月30日の前夜祭パレードから始まり、5日間の日程で行われた今年の第7回世界のウチナーンチュ大会。大会前から多くの移民2世、3世が沖縄入りし、連日お祭りムードに包まれました。

本市ではJICA沖縄で「第7回世界のウチナーンチュ歓迎会」を開き、ハワイやブラジルなどから浦添にルーツを持つウチナーンチュが集いました。会場では懐かしい面々との再会に喜び合う姿が見られました。そんなウチナーンチュをもてなそうと、OIC食堂が腕を奮って作った県産食材たっぷりの料理や、元自治会長会長の比嘉さんが気持ちを込めて作ったサターアングダギーも振る舞われました。会場では、懐かしい沖縄の味を堪能しながら、琉球舞踊のほかウチナーンチュ大使3名の認証式などが行われました。

また、初の試みとして会場と海外のウチナーンチュをオンラインでつなぎ、ブラジル市人会や、南米研修生の家族、カナダのカルガリー県人会など浦添にゆかりのある人たちに、現地での活動や生活状況を聞き、次回の再会を約束しました。時差の関係で早朝や深夜にも関わらず、オンラインで参加した海外のウチナーンチュたちと会場の参加者は鼓衆若太陽の勇壮な太鼓や獅子舞演舞の楽しい時間を共有し、最後には、参加者全員でカチャーシーを踊って会場は大いに盛り上がりしました。



1 ウチナーンチュ大会閉会式 2 ウチナーンチュ歓迎会 全員集合 3 市から法被のプレゼント 4 オンライン参加者と近況報告 5 嘉例〜! 6 獅子舞に驚く親子 7 みんなでカチャーシー 8 離れていてもオンラインで一緒に盛り上がりました

海外参加者へ Interview



アメリカ オレゴン州
ジョイ・マサコ・ホカマさん

ウチナーンチュ大会は5回目の参加で、沖縄には毎年来ています。前夜祭に参加した時に、沖縄の人たちの「おかえりなさい」の気持ちに胸が温くなりました。思いやりを持って助け合う、いちゃりばちよーの心は大切です。浦添に住む幼馴染みにも会えてとても嬉しいです。

22年前にウチナーンチュ大会で出会ったブラジルの友人に会えるのを楽しみに来ました。残念ながら今回は会えませんでした。その友人の姪に初めて出会い、新たなつながりを持つことができました。歓迎会で異なる国の人たちと交流を続けられて、とても感謝しています。



アメリカ ハワイ州
西原ラリー・春雄さん

First Meeting

祖父の足跡をたどり、浦添の親族と初対面「夢が叶った」と笑顔

カリフォルニア州に住むヨシダ・ローザンさんが沖縄県立図書館に依頼した移民1世のルーツ調査の結果を受けて、仲間在住の宮城勇さんのもとを訪れました。ローザンさんと勇さんの正確なつながりは沖縄戦による記録の焼失であいまいですが、ローザンさんの祖父、宮城全成さんの屋号「野呂殿内」が分家した勇さんの本家にあたることと、宮城家の男性は代々「全」の字が名付けられていたことから、勇さんは「私たちは親族だろう」とローザンさんに伝えました。互いの祖父母の写真を見て「目が似ている」と微笑み、ローザンさんは「子どもや孫に、浦添に親族がいることを伝えたい」と嬉しそうに話しました。



出合いに喜ぶ勇さん(左から3番目)とローザンさん(右から4番目)の家族